

八代未来づくりビジョン（八代市総合計画）（案）に対する意見募集（パブリックコメント）の結果

1 意見募集の期間	令和7年12月22日（月）～令和8年1月12日（月）
2 意見の件数	34件
3 意見の種類	（1）提案 9件 （2）要望 25件
4 意見の取扱い	（1）反映（意見を踏まえ内容の修正等を行ったもの） 0件 （2）参考（今後の業務の参考とさせていただくもの） 17件 （3）補足（寄せられた意見に対して市の考え方を補足説明するもの） 17件

No.	該当箇所	意 見	本市の考え方	意見の種類	意見の取扱い
1		八代は、夕焼けと夜景の美しい街です。オールシーズン、そうなので、花火大会の時だけ龍峰山中腹への道が混んでいるのはもったいないです。生かして下さい。	八代平野や八代海が一望できる、標高517mの龍峰山は、5合目まで車で登れるよう駐車場やトイレも完備されており、市民の憩いの場や健康づくりの場としても親しまれています。登山道入口から頂上広場までは1時間半程度で登ることができます。この素晴らしい場所を多くの方に知っていただき、足を運んでいただけるよう、今後も市の観光ポータルサイトをはじめ、SNSなどで情報を発信してまいります。	要望	補足
2		八竜山天文台が、空気が澄み、星の観測には向いているが、市街地から遠く、道が険しいので気軽にづらい。高島や大島、網蔵島のような、干拓で陸続きになっている島からも、360°空を見渡すことが可能なので、そういう立地に天文台出張所のような、場所があれば、市民が楽しみながら学ぶ機会が増えると思います。星座にまつわる神話の他に、不知火についても広く知ってもらえるように。	本市におきましても、現在、坂本地区は復旧途上にあり、道路工事の影響により天文台へ行きづらい状況であることを認識しております。そのため、来館が難しい市民の皆様のために、身近な場所での学びの機会の提供を行うとともに、広報紙や天文台HPで、月食や流星群などの天文現象に関する情報提供を行い気軽に宇宙に触れられるよう、情報発信に努めています。また、天文台の建設にあたっては、条件に合う最適地を検討した結果、空気が澄んでいることに加え、都市部から離れて人工光による光害が少なく、木々や建物に視界を遮られることのない、視界が広く開けた現在の場所が選定された経緯があります。このことから、既存の施設をより多くの方に活用していただけるよう、今後も企画内容の工夫や情報発信の充実に取り組み、天文台の魅力を分かりやすく伝えることで、市民の皆様により親しみを持っていただける施設となるよう努めまいります。なお、現時点において天文台出張所の設置は想定しておりますが、いただいたご意見につきましては、今後の天文台の魅力向上や情報発信の充実を検討する上での参考とさせていただきます。	要望	参考
3		くまモンポートの近くに眺めのよいカフェテラスがあると良いです。今は、遊んだ後休む場所がない、少し高い場所にゆっくり座って、八代海、三ツ島、天草諸島、天気の良い日は宇土鴨の向こうの雲仙岳までの眺望を、市内外の方々に味わってもらいたいです。泉産のお茶や、東陽の生姜スイーツなどを勧めることもできると思います。	本市におきましても、くまモンポート八代周辺の眺望や滞在環境の充実につきましては、来訪者にとって魅力ある空間づくりが重要であると認識しています。このような視点から、本ビジョン基本目標2の「視点2-6八代港の機能拡充・活用促進と地方港湾の機能充実(P13)」において、くまモンポート八代の機能拡充・国際クルーズ船寄港による地域経済の活性化に取り組むこととしておりますので、いただいたご意見はくまモンポート八代の魅力を更に高めるアイデアとして参考とさせていただきます。	提案	参考
4 P4～5		「第3章本市を取り巻く環境(6)環境」について世界、国レベルでも何度も示されている内容がただ繰り返し記載されているように感じます。このことを八代市の現状と同じと考えた場合、どのように具体的に当たはまるのか、例えば、CO2排出量がどのくらいで本市はどの点からこの問題にアプローチしていくのか、工業団地もできますがどのように環境問題に影響が出るのかのシミュレーションになっているのかなど、本市としての具体的な数値や取り組みも記載して欲しいと願います。	本章では、地球温暖化をはじめとする環境を取り巻く世界的・国内的な動向を踏まえ、本市が直面する課題を整理しています。また、本市の温室効果ガスの排出量の削減等の具体的な取組や数値目標につきましては「ゼロカーボンやしづら推進計画」を令和5年11月に策定し、推進しております。なお、産業立地等の個別事業に伴う環境への影響については、事業内容が具体化した段階で、関係法令や個別計画に基づき適切に検討してまいります。	要望	補足
5		【対象となる施策・箇所】第4章・健やかに学び育つ環境づくり(子ども・教育分野) 本ビジョン案では、子ども・子育て支援や教育環境の充実、不登校児童生徒への支援の必要性が示されており、その方向性には共感しております。一方で、現代の子どもたちの育ちを支えるためには、学校教育だけに価値を限定しない、より寛容で多様な学びの捉え方を明確に示すことが重要だと感じています。私自身、現在ひきこもり支援に関わる中で、子ども時代に安心して過ごせる居場所や、自分らしくいられる経験を持てなかつたことが、その後の人生に大きな影響を与えているケースを多く見てきました。その経験から、子どもたちには早い段階から、自分を否定されることなく、自分のベースで育つことができる環境が必要だと強く感じています。 不登校については、単に「解決すべき課題」として学校復帰をゴールにするのではなく、フリースクールや民間施設、オンラインでの学びなど、学校外での学びも等しく価値あるものとして認める姿勢を、自治体として示してほしいと考えています。「学校に戻ること」だけを目標とするのではなく、「どこにいても、自分らしく学べていればそれでよい」という考え方を、八代市として公に示し、それを制度や施策の中で支えていくことが、子どもたちが自分らしく成長していくことにつながると考えています。 そのためには、学校や家庭に加え、学校でも家庭でもない「第三の居場所（サードプレイス）」として、民間団体や地域が運営する少人数で安心して過ごせる居場所（学習や体験活動、対話を中心とした場）を、学校教育を補完する「学校外支援」として位置づけることが重要だと考えています。 このような多様な学びや居場所の選択肢が当たり前に存在することは、子どもたちが自分を否定せずに成長する土台となり、将来の社会参加や自立にもつながるはずです。また、学校や教職員の負担軽減にも寄与し、地域全体で子どもを支える好循環を生み出すと考えます。 八代市が、他の地域と比較したときに、どのような状況にある子どもであっても、「ここなら、自分らしく学び、生きていける」と感じられる、真に子どもに優しいまちと言われるよう、「第三の居場所の創出」と、「学校外の学びを価値あるものとして認め支える姿勢」を、八代市の未来像として明確に位置づけていただくことを希望します。	本市におきましても、国が示す「不登校児童生徒への支援に対する基本的な考え方」を受け、不登校児童生徒への支援として、学校に登校するという結果のみを目標とするのではなく、児童生徒が社会的に自立することを目指して、学校内外の多様な機関が連携しながら全ての児童生徒に届く多様な学びと居場所を整備する必要性を認識しております。 また、特に義務教育段階の学校は、各個人の有する能力を伸ばしつつ、社会において自立的に生きる基礎を養うという大きな役割を有していることから、本市独自の個別計画である「不登校対策やしづらプラン」を推進し、誰もが安心して学べる魅力ある学校づくりに取り組むとともに、不登校の未然防止や早期発見・早期対応及び自立支援のための取組を強化していきたいと考えています。 お寄せいただきましたご意見につきましては、令和8年度からスタートする「第3期八代市教育振興基本計画」の中にも活かしながら、今後の具体的な取組を進めてまいります。	要望	参考

八代未来づくりビジョン（八代市総合計画）（案）に対する意見募集（パブリックコメント）の結果

1 意見募集の期間	令和7年12月22日（月）～令和8年1月12日（月）
2 意見の件数	34件
3 意見の種類	（1）提案 9件 （2）要望 25件
4 意見の取扱い	（1）反映（意見を踏まえ内容の修正等を行ったもの） 0件 （2）参考（今後の業務の参考とさせていただくもの） 17件 （3）補足（寄せられた意見に対して市の考え方を補足説明するもの） 17件

No.	該当箇所	意 見	本市の考え方	意見の種類	意見の取扱い	
6	映画館等を作つてほしい		本市におきましても、映画館をはじめとする文化・娯楽機能は、市内外からの集客が見込み、若者や子育て世代をはじめ、幅広い世代が楽しめる施設であると認識しており、誘致に向け、関係者へ声掛けを行っていきたいと考えています。併せて、商業の活性化や賑わいの創出に取り組むことで、映画館等の民間投資が進みやすい環境を整え、魅力的な都市機能を備えたまちづくりを推進してまいります。 一方で、映画館等の民間事業者は、継続的な事業運営が成り立たなければ、撤退を余儀なくされることとなります。 そのため、誘致の実現及び定着に向けては、行政の支援や市民の皆様をはじめとする地域全体による機運を高め、立地後の利用を促進していくことが不可欠であると考えています。		要望	参考
7	図書館等を作つてほしい		本市では、図書館本館、せんちょう分館、かがみ分館の3館を設置しており、幅広い世代の学びの場として活用されております。現時点では、新たな図書館の整備や再編等の検討は行っておりませんが、今後も既存の図書館をより多くの方に活用していただけるよう、サービス内容や利用環境の充実に取り組んでまいります。 併せて、誰もが安全かつ安心して快適に利用できるよう施設や設備の改修にも取り組んでまいります。		要望	補足
8	災害後の安全、安心な生活道路を確保してほしい		本市におきましても、災害が発生した場合、速やかに道路の通行を確保するための応急工事を行い、その後、被災した道路施設の復旧工事を計画、実施し、安全、安心な生活道路の確保に取組んでおります。 お寄せいただきましたご意見につきましては、災害対応の検証や今後の取組の検討に活かしながら、引き続き安全・安心な生活道路の確保に努めてまいります。		要望	補足
9	港が汚れています。タバコや空き缶などたくさんゴミが落ちています。娘とゴミ拾いしていますが、不便なのは大きなゴミを捨てるゴミ箱がないことです。ゴミとして拾ったタバコやビニール袋などは持ち帰り、我が家のごみの日に出しています。 港にゴミを捨てれるような、何かそんなものを配置して頂けたらゴミも減るし、港も海も自然もきれいになると思います。 八代市でご検討願います。		環境美化にご協力いただき、ありがとうございます。 また、親子で港の清掃活動に取り組んでいただいていることに、心より感謝申し上げます。 本市では、ポイ捨て防止やごみの減量を目的として、ご自分で出されたごみの持ち帰りを推進しております。また、人目が行き届きにくい場所にごみ箱を設置した場合、不法投棄につながるおそれがあることから、公園などを含む公共の場では、ごみ箱などの設置を控えている状況です。 いただいたご意見につきましては、港湾管理者（熊本県）と情報を共有し、港周辺の環境美化のあり方について、今後の参考とさせていただきます。		要望	参考
10	今後、人口増、企業増、農業人口増など好転する材料は何もない。そうなれば、リサイクルに特化した市を目指す方がまだマジ。 産廃、太陽光パネル、家電、自動車など、あととあらゆる廃棄物に特化した市づくり。 反対意見は多数あるが、もはやキレイ事はで好転しない。 港、高速、新幹線など整備されている地理を活かすべき。		本市においても、人口減少や産業構造の変化など、将来を見据えた市の方についても重要な課題であると認識しております。 現在、本市では、市民の皆様に資源物の分別にご協力をいただきながら、ごみの減量化やリサイクルの推進に取り組んでおり、リサイクル率は全国平均を上回る水準となっております。 いただいたご意見につきましては、今後の市の方や施策を検討していく上での参考とさせていただきます。		提案	参考
11	八代を海外企業に売り渡すような施策は反対です。 自然を大切にしてほしいです。 木村（熊本県）知事と組んで台湾のTSMCのような半導体企業などを誘致しないでほしいです。 水質や土壌や海を守ってほしい。		現在、県内では半導体関連産業の集積が進んでいますが、企業立地や産業振興にあたっては、地下水の保全や排水による公害防止など、環境への影響に十分配慮し、関係法令や環境基準を遵守することが前提となっております。 ご意見にあります「海外企業への売却」といった懸念につきましても、本市として重く受け止めており、今後の産業のあり方を検討する際には、八代の自然環境や風土との調和、地域社会への貢献、環境への負荷を最小限に抑えることを重視してまいります。		要望	補足
12	不登校や子育ての悩みを支援したいですが、市からの応援が欲しい。 教育熱心で教育の知識にも自信があります。 一人では力が足りなくて、是非市の支援もお願いいたします。		本市では、全ての児童生徒に適した多様な学びと居場所を届けるとともに、子育て中の保護者支援を充実させるために、学校内にとどまらず、民間施設や専門機関などの多様なリソースが連携した支援体制の整備が重要であると考えております。 今後も、市が中心となり、志を持つ市民の皆様や関係機関とのネットワークを強化し、地域の教育力をいかして、多様な学びの選択肢を確保できるよう努めてまいります。		要望	補足
13	子どもが遊べるキッズランドみたいな場所があれば、親も時間があるのはと思います。		本市では、子どもが安全に遊び、保護者同士が交流できる場として、おおむね0歳から5歳までの子どもとその保護者を対象とした「こどもプラザ」や「地域子育て支援センター」を市内8か所に設置しています。これらの施設では、子どもの遊びの場の提供に加え、子育てに関する相談や交流の機会づくりを行っています。 また、幼児から高校生までを対象に多様な活動を行う「八代ひかり児童館」を設置し、子どもの居場所づくりを推進しています。 現時点では、新たな専用施設の整備について具体的な計画はありませんが、今後も既存施設を活用しながら、子どもが安心して過ごせる遊び場や居場所の充実に取り組んでまいります。		要望	補足

八代未来づくりビジョン（八代市総合計画）（案）に対する意見募集（パブリックコメント）の結果

1 意見募集の期間	令和7年12月22日（月）～令和8年1月12日（月）
2 意見の件数	34件
3 意見の種類	（1）提案 9件 （2）要望 25件
4 意見の取扱い	（1）反映（意見を踏まえ内容の修正等を行ったもの） 0件 （2）参考（今後の業務の参考とさせていただくもの） 17件 （3）補足（寄せられた意見に対して市の考え方を補足説明するもの） 17件

No.	該当箇所	意 見	本市の考え方	意見の種類	意見の取扱い
14		8月の大雨の為、千丁公民館が避難所となり、公民館が使えなくなりました。 幸いに隣のパトリア千丁が使用出来て自身が通っている英会話スクール他に行くのですが、温泉客の方やイベントの方々で駐車場がいっぱいです。 駐車場は千丁支所を使って良いのですが、支所は夜真っ暗です。 帰る時はこわいです。陰から誰かでてくるのではないかと思いこわいです。 電灯を1つでも良いのでつけてもらえないでしょうか。	夜間の駐車場利用に際し、ご不安な思いをされていることについて、心よりお察しします。 現在、千丁支所では、快適な環境を維持・向上させるため、空調設備改修工事及び照明のLED化工事を実施しております。 これまで支所の駐車場に設置していた外灯もLED化のため一時的に撤去しておりますが、工事完了後には外灯を再設置する予定としています。	要望	補足
15	全体	全般として、従来から計画に対する検証が不十分で、評価手法（例えば、市民の評価や第三者による評価）が整理されていない様に感じられます。「八代市、市町村合併検証報告書（平成29年5月）」では、坂本、泉、日奈久の人口減少率が著しく、且つ、合併に対する評価率が低いと検証されています。 泉町の住民からは「合併したことが良くなかった」「合併は失敗だった」などの声が聞かれ、高齢化・人口減少が進むなか中山間地の地理的に不利な状況も相まって公共（行政）サービス更なる低下が危惧されています。	まず、計画に対する検証についてですが、本ビジョンは、市の目指すまちの姿や、その実現に向けた方向性を示したものであり、現在策定中の【仮称】八代未来づくり総合戦略（以下、「総合戦略」という。）において、本ビジョン達成のための具体的な取組を整理し、一体的に推進することとしています。（第2章 ビジョンの概要）に記載） そのため、総合戦略においてKPIを設定し、毎年、計画（plan）、実行（do）、評価（check）、改善（action）のPDCA マネジメントサイクルにより進捗状況を確認し、計画を推進していくこととしています。また、検証過程においては、市民の皆様に公表し評価をいただくとともに、レビューをもとに改善を図りながら計画を進めることとしています。 次に、市民サービスについてですが、市内全域において均衡あるサービスの提供に努めており、今後も引き続き、市民サービスが低下しないよう、行政運営を進めてまいります。	要望	補足
16	P1	第1部 第2章 ビジョンの概要 「本ビジョン」と「（仮称）八代未来づくり総合戦略」の関係性がどのようになるのか分かれにくく、更なる説明が必要と感じます。また、同戦略はいつ公表されるのでしょうか。 諸計画を整理・統合して市長の任期に合わせて4年毎にすることは理解できますが、全体的に総花的な様に感じられます。4年間を中期計画とするならば、具体的なゴール（KGI）を示し、指標（KPI）で具体化して検証することで、目指す姿「八代未来づくりビジョン」のプラッシュアップが図られるのではないかでしょうか。「4年ごとに見直し」は良いですが、検証やその公表はいつされるのでしょうか。「行政側の都合で勝手に見直し」にならない様に「検証・公表」をお願いします。 「4年ごとに見直し」→「4年ごとに検証し、検証結果を公表し市民の意見集約を行うとともに今後のビジョンに反映する」という表現にはならないものでしょうか。	本ビジョンは、「第2章ビジョンの概要」欄に記載のとおり、市の目指すまちの姿や、その実現に向けた方向性を示したものであり、【仮称】八代未来づくり総合戦略（以下、「総合戦略」という。）において、本ビジョンを達成するための具体的な取組を整理し、一体的に推進することとしているところです。 これを踏まえて、総合戦略において、以下のとおり位置づけを明記し、関係性を整理しているところです。 なお、総合戦略の公表についてですが、1月23日（金）からパブリックコメントを開始します。 (以下、総合戦略から抜粋) 八代未来づくり総合戦略は、ビジョンに掲げためざすまちの姿及び基本目標の実現に向け、具体的な施策を取りまとめたものであり、これまでの総合戦略で取り組んできた人口減少対策と地方創生の考えを継続するとともに、市長の基本政策である「未来を取り戻す8つの挑戦」や、全市民を対象とした意見公募の結果を踏まえた本市のリーディングプランとして位置づけるものです。 次に、検証と公表についてですが、No.15に記載のとおりとなりますので、ご参考ください。 最後に、4年ごとの見直しに関する表現についてですが、本ビジョンを推進する総合戦略において、毎年、検証・公表を行うこととしておりのことから、本ビジョンの表記については、このようにしているところです。	要望	補足
17	P12～13	第2部 第2章 まちづくりの目標 基本目標2「地の利、人の利を活かしたまちづくり」 本市は、6市町村の合併によりその面積は広大ですが「平野部」と「山間部」に二極化されています。（視点2-2）農業者の経営力強化と生産基盤の保全・整備について、平野部と山間部では作物も耕作面積や経営状況も大きく異なっています。 特に山間部の農業については平野部との事業環境が大きく異なり、スマート農業等による効率化や収益向上が図りにくく、高齢化と後継者不足による農業の維持継続が難しい状況を鑑み、市としてのその方針、山間部における「地の利」について記述すべきでは無いでしょうか。	本市におきましても、平野部と山間部で地形や當農条件が大きく異なる中、それぞれの地域特性を生かした多様な農業が営まれていると認識しています。特に山間部においては、高齢化や後継者不足などにより農業の維持が課題となる一方、地域ならではの農産物や自然環境といった特性を有しており、こうした点も含めて「地の利」として捉えています。 本ビジョンでは、平野部・山間部それぞれの特性を踏まえた農業振興の方向性を示しており、具体的な支援内容や取組については、担い手対策や生産基盤整備などの個別施策において、地域の実情に応じて進めています。	提案	補足
18	P17～19	第2部 第2章 まちづくりの目標 基本目標6「元気な暮らしと持続可能なまちづくり」 空き家の増加が進行する中で、その具体的な対策はあるのでしょうか。特に山間部においては、従来から実施されている「空き家バンク」だけでは充分ではないと思います。人口減少率が高いのは坂本町・泉町の様な山間部であり、厳しい自然環境、教育や子育て、交通、行政などを含む公共サービスの低下から住みにいく不便さを感じた結果であるとも思われます。特に泉町では合併が人口減少を誘引したのも事実です。 持続可能なまちづくりを目標に掲げるのであれば、市の面積の48%を占める山間部（東陽町、泉町の面積比率）に対する施策を示してほしい。	本市の空き家の現状につきましては、他自治体と同様に平野部・山間部を問わず増加傾向にありますことから、現在、その対策として老朽危険空き家除却事業や空き家バンク制度の運用を行っております。集落の維持には、交通や買い物、医療や空き家対策を含めた住まいの確保等の生活環境の整備が必要であることから、関係部署が連携し取組を進める必要があると考えております。 また、山間部に対する施策につきましては、【仮称】八代未来づくり総合戦略（以下、「総合戦略」という。）において、山間部を含めた地域の特性に応じた持続可能なまちづくりを進めることとしております。 いただいたご意見につきましては、今後、山間部における地域の持続可能性を検討していく上での参考とさせていただきます。	要望	参考
19	P20～21	基本目標7「危機に即応できる安全なまちづくり」 泉町は市のハザードマップに示されている通り、地すべりの指定地域が多く、山間地ならではのリスクからどこにも安全な場所はないとも言われています。昨年6月の豪雨では下岳地域において大きな被害を受けた地区もあり、過去に類をみない局所的な豪雨は今後も増加すると考えられます。国土強靭化基本法に基づく基本計画並びに「国土強靭化地域計画」に強く連携し、要望を反映するとともに、地すべり対策を早急に進めて頂きたい。（現状の地域計画には地すべり対策は含まれていない）防災力向上を目的としたソフト面の強化のみならず、災害リスクを低減するインフラ、住環境の整備等、国土強靭化について方針を示すべきではないでしょうか。	地すべり対策につきましては、泉町をはじめとする山間地において重要な防災課題であると認識しております。 現在、校区からの要望をとりまとめ、県に対して対策の要望を行っており、今後も引き続き、地域の声を踏まえながら県と連携した対応を進めてまいります。 また、お寄せいただいたご意見につきましては、八代市国土強靭化地域計画の内容充実に向けた検討に活かすとともに、地すべり対策を含む砂防事業等についても、県と連携しながら推進してまいります。	要望	参考

八代未来づくりビジョン（八代市総合計画）（案）に対する意見募集（パブリックコメント）の結果

1 意見募集の期間	令和7年12月22日（月）～令和8年1月12日（月）
2 意見の件数	34件
3 意見の種類	（1）提案 9件 （2）要望 25件
4 意見の取扱い	（1）反映（意見を踏まえ内容の修正等を行ったもの） 0件 （2）参考（今後の業務の参考とさせていただくもの） 17件 （3）補足（寄せられた意見に対して市の考え方を補足説明するもの） 17件

No.	該当箇所	意 見	本市の考え方	意見の種類	意見の取扱い
20	P20	(視点 7-1)「自助」「共助」を基盤とした地域防災力の強化について、現在、本市では県が主催する「ひのくに防災塾」を活用し防災士の資格取得を推進し、受講費用の一部を補助しておられます。また、八代市登録防災士制度により連携強化を図っておられます。 地域防災力の更なる強化を図るには登録防災士を増やす取り組みが重要です。防災塾の受講地は、県内各所、遠方で開催されることが多く、3日間受講のスケジュール調整も大変な事から参加しづらいとの意見があります。阿蘇市は、地域の防災力を高めるための人材を養成すべく、単独開催による『防災士養成講座』を開催しました。(令和7年8月)八代市内での市民を対象とした単独開催はできないでしょうか。 また、市の避難所開設に当たっては、市職員2名が運営任務に当たっておられますが、その内1名を地元の登録防災士が担うことにより、防災士スキルアップと市との連携強化につながります。地元の登録防災士のほうがハザード把握、リスク検討、地元関係者との連携強化において有効だと考えられます。	本市におきましても、地域の防災力向上を図るうえで、各地域の防災士を増やす取り組みは必要不可欠で重要であると認識しております。 現在、熊本県においては、自主防災組織等が行う地域の防災活動に貢献したいと考えている方を対象に、防災士の資格を取得できる「火の国ぼうさい塾」を毎年、開催されており、県及び本市ホームページに募集案内を掲載し、市民に広く周知しているところでございます。 また、防災士の資格を取得した方に対し、資格の取得に要した経費の3分の2を補助する「八代市防災士育成事業補助金」制度を設け、資格取得を促しているところです。 「火の国ぼうさい塾」の開催地については、県内の北部と南部と分けて開催時期をすらして実施されており、本市では令和6年2月に実施しました。遠方の場合や3日間の受講が必要なため、参加が難しいとの声も承知しております。それでも、防災士に必要な知識や技能を学べる大切な機会ですので、ぜひ受講をご検討いただければ幸いです。 なお、市単独での開催につきまして、ご要望の趣旨は大変重要と考えておりますので、今後他自治体の状況を調査及び研究して検討していきたいと考えております。 次に、避難所運営について、平常時から地域の事情に精通した登録防災士を含めた自主防災組織による運営体制の構築を進めるとともに、災害時には市職員や施設管理者と協力し、地域住民参加の避難所運営体制が確保されるよう努めてまいります。 本市といたしましては、今後も地域防災力向上のため、より多くの市民の方に防災士の資格取得への推進及び登録防災士の育成を図るため、情報発信や研修会等の実施を進めてまいります。	提案	補足
21	P21	(視点 7-7)危機に強い道路ネットワークの確保と道路の保全について、当協議会は区長会と連携して町内47地区の要望をとりまとめ「地域要望書」として市に提出しております。 その内容の多くは、道路(多くは市道)に係る要望であり、道路の保全が復旧として進まないとの意見があります。特に五家荘地区においては、宮崎県側は復旧しているものの、熊本県側(八代市側)は不通となっている道路があり「自分が生きている間に復旧するものだろうか」と言う声もあります。「八代市国土強靭化地域計画(令和2年3月制定)」についてのビジョンを共有する表現、計画を盛り込むべきだと思います。	地域要望書に挙げられた要望につきましては、現地の状況、緊急性、重要度等を勘案し、予算の範囲内で対応可能なものから対応しております。しかしながら、要望が膨大な数あり、単年の予算で全ての要望に対応することが困難な状況であることから、大規模なものや、緊急性、重要度が低いものについては、対応までにお待たせする状況が生じております。今後も積極的な予算要求を行うとともに、補助事業や交付金事業を活用する等、より多くの予算が確保できるよう取り組み、要望対応率の向上に努めます。 次に、五家荘地区の道路の復旧につきまして、ご意見の内容から「市道五家荘～椎葉線」に関するものと推察しますが、令和4年から令和6年の梅雨前線豪雨災害及び台風災害により合計7箇所が被災し、全線通行不能となっており、道路利用者の皆様には大変なご不便をお掛けしております。復旧工事の進捗状況ですが、最も泉町側の箇所を令和6年10月に着手し、昨年12月までに7箇所中、3箇所の復旧工事が完了しております。残りの4箇所についても、本年度に2箇所、令和8年度に1箇所、令和9年度に1箇所の復旧工事を計画し、令和9年度中の全線復旧完了を目指して進めております。 お寄せいただきましたご意見につきましては、八代市国土強靭化地域計画への記載に向けた検討に活かすとともに、引き続き危機に強い道路ネットワークの確保と道路の保全に努めてまいります。	要望	参考
22	P11	基本目標1「市民から見える、市民の声を聞く信頼されるまちづくり」 一般、「新たな基本構想への意見募集」において、五家荘地区の地理的に不利な状況について意見を具申しました。(視点 1-3)便利で安全、安心な「デジタル市役所」の実現についてビジョンに掲げられたことを高く評価し、遠隔地において市街地と同様のサービスを受けられる恩恵は将来的に見ても大きいと考えています。 しかしながら、現実的にデジタルスキルが高くない高齢者がこのサービスを受けるには広報、周知、認識、さらに全面的なサポートが重要で、情報格差を生じない体制構築が必要です。 実行段階において、拠点・インフラ並びにサポート員の配置等について十分に検討いただき、「絵にかいた餅、自己満足の押し付け」にならぬ様、ご配慮頂きたくお願いします。	本市におきましても、デジタル市役所の実現には、デジタル機器の操作方法等について市民の皆様が「身近な場所で」相談できる環境づくりが重要と認識しています。現在においても「スマート教室」等を定期的に開催している状況ですが、遠隔地など地域の状況に配慮しながら、今後の支援等のあり方について検討いたします。 また、デジタル化を進める一方で、広報紙やケーブルテレビなど、既存の伝達手段も重要であると認識しており、デジタルを補完する形でアナログ的手法を適切に組み合わせることで、地域や利用環境による情報格差が生じないよう配慮いたします。 いただいたご意見につきましては、デジタルデバイド対策をはじめ、「デジタル市役所」を推進していく上での参考とさせていただきます。	要望	参考
23	P11	未来ビジョン基本目標1、視点1-3「デジタル市役所」に賛同すると共に、意見申し上げます。 「デジタル市役所」の普及並びに利用推進に当たっては、必要なITリテラシー、情報モラルや個人情報保護の観点を含むネットリテラシーを持つ人材によるサポート体制の確立が重要です。デジタルスキルの高い人はまだしも高齢者を含むPC等不慣れな人にとっては更なる情報格差を生じかねません。この点、デジタルデバイド対策を推進しますとの表現がなされており、課題を認識してビジョンに反映されている点を評価します。 ビジョンに基づく具体的な計画の立案はこれからですが、以下に小職の具体的な(案)を提案しますのでご参考ください。 (提案)「八代市デジタルサポート制度」の創設 市職員のみならず市民からデジタルスキルの高い人材を募り、求められる情報リテラシー等の研修・教育を受けた者を「八代市デジタルセンター」に登録し、「デジタル市役所」に関する普及推進、サポートに当たらせる。 デジタルセンターは、非常勤とし定期的な研修により「デジタル市役所」に関する情報共有を図り、必要であれば各コミュニティセンターに勤務する者をデジタルセンターに選任することで、コミュニティセンターの業務として機能させる。 普及推進にあたっては、一方の押し付けになることなく、システムの機能達成による自己満足になることなく実効性を目標に進めて頂きたくお願いします。 デジタルセンターを市民から募ることにより、視点1-2 市民等と市の協働の推進につながり、人口減少の未来に機能する「デジタル市役所」の普及につながるのでは無いかと思います。	本市におきましても、ご提案いただいた「八代市デジタルサポート制度」のような、市民の皆様の知見を活かしたサポート体制の構築は、デジタル化の恩恵を広く届けるための有効な方策の一つであると認識しております。また、市民等と市の協働の推進(視点1-2)の観点からも、大変参考になるご提案です。 今回いただいたご提案は、今後、デジタルデバイド対策等の具体的な施策や事業を検討していく上での貴重なアイデアとして参考とさせていただきます。	提案	参考

八代未来づくりビジョン（八代市総合計画）（案）に対する意見募集（パブリックコメント）の結果

1 意見募集の期間	令和7年12月22日（月）～令和8年1月12日（月）
2 意見の件数	34件
3 意見の種類	（1）提案 9件 （2）要望 25件
4 意見の取扱い	（1）反映（意見を踏まえ内容の修正等を行ったもの） 0件 （2）参考（今後の業務の参考とさせていただくもの） 17件 （3）補足（寄せられた意見に対して市の考え方を補足説明するもの） 17件

No.	該当箇所	意 見	本市の考え方	意見の種類	意見の取扱い
24		八代は、神社や喫茶店などが意外に魅力だと思います。 洋服屋さんや雑貨などのお店が増えればいいなと思います。 八代の人は、結構オシャレだと思います。 もっと楽しいお店やゆっくりできる空間を作りたいです。	本市が有する歴史的資源や身近な店舗などの魅力を活かしながら、商業の活性化や持続的な賑わいの創出を図ることで、洋服店や雑貨店など、新たな創業や民間事業者の投資を呼び込む、魅力ある街づくりを進めてまいります。	要望	参考
25	全般	惜たしかに年末年始に、1ヶ月にも満たない短い期間で、このような重要なパブリックコメントを募集するのは良くないということです。私自身、気づいたのは、年が改まった1月6日頃でした。しかも中身を見ると、10月下旬～11月下旬の1ヶ月間募集された市長の基本構想、「未来を取り戻す8つの挑戦」と、ほぼ重複しています。こちらは市報にも掲載されたので、周りの人へも呼びかけてたのですが、今回のパブリックコメントは、気づいた人も少なかったのではないかと思う。何らかの方法で両者をリンクさせることはできなかつたのかと思ってしまいます。いずれにしても、できるだけ多くの市民の意見を集めようとするなら、少しでも市民の負担を軽減するような対策を講じていただきたいです。	10月下旬～11月下旬にかけての意見募集は、本ビジョン策定に向けて、市民の皆様からご提案やご意見をお聞きするため、実施いたしました。 今回のパブリックコメントにつきましては、前回（10月～11月）いただいたご意見等を踏まえて策定した「八代未来づくりビジョン（案）」に対して、意見募集を行つたものになります。 いただいたご意見につきましては、今後の意見募集などにおいて参考とさせていただきます。	要望	参考
26		八代市の現在だけでなく将来にわたって持続可能な取り組みを考えるなら、やはり次世代を担う子ども・若者の問題はとても重要と考えます。具体的には、不登校・ひきこもり、ヤングケアー、貧困、虐待などの問題です。これらの問題こそ、行政だけで、民間だけで取り組んでもなかなか進まない、広がらない。そこで、両者が協働して取り組む必要があると考えます。この協働については、八代市に協働のまちづくり推進条例・推進計画があるのですが、うまく機能しているとは思えません。民間は八代市のために、八代市の子どもや若者のために…という熱い思いはあっても、活動資金・活動場所・人手・広報力などが不足しているケースが少なくありません。そういう弱い部分を行政が補って、手を携えて良い方向へ進んでいけたらと願っています。繰り返しになりますが、一番力を入れていただきたいのは、子ども・若者への行政・民間協力し合っての協働事業です。	本市におきましても、子ども・若者が抱える不登校、ひきこもり、ヤングケアー、貧困、虐待などの課題は、本市が将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていく上で、極めて重要な課題であると認識しています。 これらの課題は、行政のみ、あるいは民間団体のみで解決することが難しく、行政と民間がそれぞれの強みを生かし、連携して取り組むことが不可欠です。子ども・若者に関する相談や問題への対応については、「こども家庭センター」を中心に、関係部署や学校、福祉関係機関等と連携しながら支援を行うとともに、民間の支援団体等との連携にも努め、地域全体で子ども・若者を支える体制の充実を図ってまいります。 なお、本市では、協働のまちづくり推進条例や推進計画において、市民等と市が対等の立場で話し合い、互いが自主的・自律的に考え、共に行動するという「協働のまちづくり」を推進しておりますので、引き続き地域の課題解決に向けた取組みを推進してまいります。	提案	補足
27		八代市で保護犬がいる犬舎が昔の古い基準の建物なので、今の基準でもっと環境の良い犬舎にしていただきたいです。 それから、犬舎のエアコンが壊れてしまったそうで、この冬の寒い夜、保護犬たちのために、「はちボラ」さん方が、みんなお金をしてビーターを買って犬達のためにつけてあげました。 エアコンは今すぐ必要なのでつけてあげてください。お願ひいたします。	ご意見にある犬舎については、管理者が八代保健所です。 いただいたご意見につきましては、犬の飼養環境に関する切実な声として、八代保健所と情報共有いたします。	要望	参考
28		八代の昔からの文化を絶やさないでほしい。	本市におきましても、伝統や文化を次世代へ引き継いでいくためには、市民一人ひとりがその歴史的・文化的価値を理解し、共に守り育てていくことが重要であると認識しています。 本市には、八代妙見祭をはじめとする多くの歴史・文化遺産があり、これらの保存・活用に取り組んでいます。 今後も、行政と市民が一体となって八代の歴史や文化への理解を深め、地域の皆様が保存・継承に参画できるよう、継続して取り組んでまいります。	要望	補足
29		八代には、素晴らしい場所、名産、歴史があり、自分が子ども頃から、こんなに豊かな所に住んでいた事を知って過ごせていたら、生かす知識や、人ともつながれただろうなと思ひ。 教育面を充実できるといいな♪	八代の豊かな自然や名産、歴史など、地域の魅力を子供の頃から知り、誇りをもつことは、学びの広がりや人のつながりにも大きく寄与すると考えます。 本市におきましても、郷土理解や郷土愛を育む教育の充実は重要であると捉えており、いただいたご意見につきましては、今後の計画推進に向けた検討の中で参考とさせていただきます。	提案	参考
30		①、厚生会館の修復について 目的、2番（人口）目の12万に対して、1位74万人の熊本市未来には人口増15万を目指す。その為にはIT産業だけに頼らず、文化事業（芸術、音楽、絵画、文学）を推進するためには、現会館の修復が1番の近道。 修復は可能であること（ホール再開を求める会、冊子及び単行本） クラシック音楽は普遍性、流行歌は一過性 ② 館の集客、目標プロセス 交通インフラの整備（ほぼ理想的）が完結していることで — 新幹線・高速道路、天草からフェリー（港） — 県外からも八代市へのアクセスは可能。 ③ 館の最終目的。 文明・産業は、滅びても、文化は生き残る。その地に根をはつた、市民主導による、行政の働きかけは市民が住むエリアに誇りを持っていること。 館周辺の環境は完成！！ 希望が持て夢がはぐくめる。	現在、旧厚生会館の閉館に至った経緯等について再検証しており、今後の方針については、市民や専門家の皆様から広くご意見を伺いながら、慎重に検討を進めてまいります。	提案	参考

八代未来づくりビジョン（八代市総合計画）（案）に対する意見募集（パブリックコメント）の結果

1 意見募集の期間	令和7年12月22日（月）～令和8年1月12日（月）
2 意見の件数	34件
3 意見の種類	（1）提案 9件 （2）要望 25件
4 意見の取扱い	（1）反映（意見を踏まえ内容の修正等を行ったもの） 0件 （2）参考（今後の業務の参考とさせていただくもの） 17件 （3）補足（寄せられた意見に対して市の考え方を補足説明するもの） 17件

No.	該当箇所	意 見	本市の考え方	意見の種類	意見の取扱い
31		市民によって選ばれた議員はプロフィール・市政方針を自己発言できる人。	市議会議員は一人一人が、市民の皆様の選挙によって選ばれており、それぞれの議員が、自分の経歴や市政運営に対する考え方等を、自らの責任において発信する立場にあられます。 市としましては、議員活動の充実を図るため、地方自治法の規定に基づき政務活動費を交付しており、それぞれの議員が、調査研究や研修等に活用されているところです。 なお、政務活動費の使途や収支状況については、市議会ホームページにおいて公表されていますので、そちらをご覧ください。	要望	補足
32		職員は、県内から募集して、厳しい内容のある採用試験。 昭和、平成、令和に至ってもつづいている、裏金悪用の人事採用は民事罰の対象にする。 今日でもまかり通っている、あるうわさを市街以外の旧郡部ではさく。（誰がやっていたのか調査）	職員採用試験につきましては、有為な人材を確保するため、全国から受験者を募集し、基礎能力検査、面接試験、集団討論試験、専門試験などを組み合わせ、公正かつ適正に実施しております。 なお、仮に公正を害する行為があった場合は、その態様に応じて、刑事罰の対象となるものと考えております。 本市といたしましては、今後も採用試験の公正性と透明性の確保に努めてまいります。	要望	補足
33		パソコン、スマホを持っていない市民の為の紙の活用について。 公報(月刊)には、新体制(市政)になって、情報が載るようになりました。私はデジタル機器を持っていないので新聞、雑誌です。 公報には別紙で重要議事録の掲載をお願いしたいところです。子供新聞(高齢者用) 大きな字にした形で。	市民の方へ広報を行うにあたり、紙媒体による情報提供は重要であると認識しています。 市が月に1回発行している「広報やつしろ」では、市さまざまな取り組みや行事イベント、市民生活に関わりが深い情報を中心に掲載しております。 重要な会議の議事録につきましては、その内容や分量から、全文を広報紙に掲載することは困難であると考えています。 なお、市議会の会議録や各種会議の議事録につきましては、八代市役所本庁舎1階の情報プラザにおいて紙で閲覧することができますので、そちらをご利用いただければと思います。	提案	補足
34		音楽教育については、白百合学園、玉名女子高、御船にある音楽短期大学と連携を。	音楽教育の充実に向けて、地域内外の教育機関と協力しながら、子供たちの多様な学びの機会を広げていくという視点は、今後の教育施策を検討するうえで大変参考になるものです。 いただいたご意見につきましては、今後の計画推進に向けた検討の中で参考とさせていただきます。	要望	参考